



2020 年度 事業報告

〒610-1111 京都市西京区大枝東長町 1-67
社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター
TEL075-333-0171 FAX075-333-0172
Email: info@kyo-sssc.com

目 次

I	2020 年度 法人概要	1
	はじめに	1
	1. 経営戦略会議の設置運営	1
	2. 洛西寮 日中活動を就労継続支援 B 型へ一体化	1
	3. 新型コロナウイルス感染症対策	2
II	各部門別報告	2
A.	障害者支援施設「洛西寮」	2
	支援計画（ステップアッププラン）	2
	1. 就労継続支援 B 型「らくさい作業所」	2
	2. 生活支援	4
	3. 施設入所支援（夜間支援）	5
	【各サービス内容】	6
	1. 健康管理	6
	2. 食生活と栄養管理	8
	3. 歩行訓練	9
	4. ボランティア支援サービス	10
B.	三療事業部	11
	1. 盲人ホーム 美鈴	11
	2. 就労継続支援 A 型「らくさい治療院」	12
C.	法人	13
	1. 事務局	13
	2. 点字出版施設「紫野点字社」	15
	3. 京都府失明者巡回生活指導員派遣事業	16
	4. 指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所 スマイルサポート」	17
	5. 主催行事	18
	6. 共催事業	19

I 2020年度 法人概要

はじめに

2020年度は新型コロナウイルスに翻弄されつつも、新体制の中、洛西寮B型一体化と生活支援の基盤作りに邁進し、加えて2つの三療事業所においては、コロナの感染対策を万全に、来院患者のニーズに応えられるように健闘できた年となった。

コロナの影響により社会情勢も視覚障害者の取り巻く環境も大きく変わり、もし、どこかに行き場がない、頼る人がいない方がいるとしたならば、我々の使命は何なのか、役割は何なのか、何のための誰のための法人事業なのかを再度検討することの必要性を実感している。

そこで将来の法人事業の方向性を考えた時、個性を活かし能力や可能性を伸ばすことと、中途失明者自身が障害への受容を深め、次なる可能性へ繋げること、この2つの支援は欠かせない。

さらに、これからは施設で働く内容が大きく変化する時代が到来することも視野に入れて、新たな作業、職種の開拓が必要であると考えます。

2021年度も新型コロナウイルス感染症の動向が不透明で先行きは読めないが、基本理念の「希望に満ちた成長への喜び」を柱に、社会のニーズに対して、法人事業がどうあるべきか、当事者の将来の不安を安心に変えるために何をなすべきか、視覚障害者福祉の一筋の光として、法人事業の経営及び運営に邁進する。

1. 経営戦略会議の設置運営

法人経営や財政基盤の確立のため、全般的な運営を組織的・戦略的に行う会議とし、前年度の財政強化対策本部から引き継ぎ、年間8回開催した。

主な検討内容

- ① 理事会への提案議案の確認・精査
- ② 洛西寮利用者確保のための広報宣伝活動
- ③ 当法人が社会的に必要とされる利用者ニーズの分析と中長期プランの検討
- ④ 新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの作成

上記検討事項の中でも、利用者のニーズ分析は今後の法人や各施設の方向性を考えるのに重要課題である。時代と共にニーズは変化していくことを踏まえ、社会における視覚障害者の状況等の情報を得ながら常に社会から必要とされる法人となるよう方向性を考える。

2. 洛西寮 日中活動を就労継続支援B型へ一体化

2020年4月1日より、就労継続支援B型と生活介護の2つの事業所を、就労継続支援B型へと一体化し事業を開始した。

当初の目的以上の効果があった。

- ① 職員が一体的となり、利用者サービスが向上した。特に必要な生活支援が充実した。
- ② 利用者が携わる作業範囲が広がり、よりニーズに対応したスキルアップや可能性に着目した支援の充実が図れた。
- ③ 定員が40名に拡充したことで、就労B型希望者の入所が可能となった。

洛西寮が担う視覚障害者への福祉サービスは、就労継続支援B型事業所の枠に収まるものではなく、やるべきことは法人理念の「希望に満ちた成長への喜び」であり、利用者をトータルでサポートし、その人の人生を豊かにすることである。

就労継続支援B型に一体化したことにより、事業所間での縦割りプログラムが解消され、職員配置にも融通がきくようになり、より利用者支援を充実することができた。

3. 新型コロナウイルス感染症対策

2020年度はコロナ禍の中でいかに事業運営を継続し、利用者サービスが滞らないようにすることが重要であった。当法人では、原則は行政指導に則った対策をし、感染予防を徹底しながらも、利用者に対してはいつもと変わらないサービスを提供できるようにした。

設備面では、洛西寮の和室二人部屋の中央に仕切り壁を設置し洋室で個室化し、同室者による飛沫感染を未然に防ぐ改修工事を行った。また、感染が発症したときの隔離部屋として「簡易陰圧装置」を設置した。これは、密閉室内の空気をクリーンにして排気する装置で、ウイルスの拡散の防止に効果の期待できるものである。この2つの設備に関しては、京都市の補助金を活用した。

この1年は不安な社会情勢の中であったが、洛西寮は事業再編した初年度で利用者の可能性が高まる取り組みができ、三療事業所は日頃からの研鑽したスキルの積み重ねにより沢山の患者に来院していただいた。事業運営全般を見ると、経営状況含めてコロナ禍での影響は最小限で抑えられている。

II 各部門別報告

A. 障害者支援施設「洛西寮」 支援計画（ステップアッププラン）

【概要】

当法人の理念及び行動指針をもとに、個別の能力、可能性に着目し、利用者のニーズを十分に把握し必要なアセスメントをさらに深め、本人の願いをかなえるためのより具体的な支援内容とした。「支援計画」から「ステップアッププラン」と名称変更し、生活面及び作業面等の個々の達成度をわかりやすく一つ一つの項目の洗い出しを行った。また、段階的到達度の設定を行うことで利用者のモチベーションアップとなり、法人理念である「希望に満ちた成長への喜び」に繋がる自立に向けてのより良い支援となるよう努めた。

1. 就労継続支援B型「らくさい作業所」

【概要】

2020年4月1日からの生活介護事業を廃止してB型一体化による支援に備えて、2020年1月～3月の3カ月間の試行期間として準備をすすめた。その結果、生活介護事業所の利用者であった方々もスムーズに就労継続支援B型へと移行し、スタートを切ることができた。

今年度は新型コロナウイルス感染症流行による影響は否めず、京菓子の箱の受注減により、仕事量の確保が難しく作業時間の短縮を余儀なくされる等、例年通りとはいかない難しい1年であった。

しかしその仕事量の減少をチャンスと捉え、多くの時間をスキルアップの時間に充てて取り組んだ結果、できることが増えることで利用者のやる気が芽生え、スキルアップへと繋げることができた。利用者の可能性に目を向ける支援の大切さに改めて気付かされた1年となった。

【成果】

- ① 2つの事業所が1つとなり、事業所の一体感が生まれた
- ② 利用者のスキルアップとモチベーションへのアプローチ
- ③ 可能性を伸ばす支援への気づき
- ④ 作業場間・支援員間の連携強化
- ⑤ 点字データ作成者の育成開始
- ⑥ 社会情勢を踏まえた新製品の作製（エコバッグ・マスク）
- ⑦ 製品委託販売の実施（近隣保育園）
- ⑧ B型事業所の基盤作り
- ⑨ スキルの現在地がわかりやすい評価表の作成

【課題】

- ① 可能性を伸ばす支援への取組
- ② 支援員のさらなるスキル向上
- ③ 点字データ作成者の育成
- ④ 生活支援員へのサポート・連携の強化
- ⑤ コロナ禍における売上減少への対策

【実績】

① 作業科目一覧

科目	内容
点字印刷	市民しんぶん、市会だより、京都市部局情報誌、盲導犬協会情報誌
封入発送作業	市民しんぶん拡大版、市民ニュースポスター
ミシン縫製	下請：和装用袋、ヒモ通し、袋物、カバンの込み入れ作業等 自主製品：給食袋・体操服入れ・白杖入れ・手提げ袋・マスク等
箱作業	京菓子箱：八つ橋・京の夢丸
数珠加工	数珠玉通し
黒豆茶	ティーパックの袋詰め作業

② 売上

科目	売上（円）
点字	8,722,216
自主製品	683,250
縫製下請	247,387
箱作業	332,200
数珠加工	54,030
黒豆茶	184,440
自販機	336,594
その他	22,557
合計	10,582,674

③ 工賃

総支給月数 合計③	就労時間 合計①	工賃支払総額 合計②	平均工賃月額（一人当たり） ②÷③	平均工賃時間額 ②÷①
456 月	32,477 時間	8,128,054 円	17,825 円	250.3 円

※工賃補償補助 1,220,878 円は含まず。含めると平均工賃月額=20,502 円

2. 生活支援

【概要】

今年度、就労継続支援 B 型一体化に伴い、効率の良い作業支援を行うために、急病や作業時間中のアクシデント、必要度の高い生活支援を優先的に対応する、生活支援員（作業支援を行いつつも生活支援を主にする支援員、看護師・栄養士を含む）を配置した。

個別の必要に応じた継続的な生活の支援も行い、一斉の居室の支援や利用者の運動、レクリエーションによるストレス解消なども企画した。

【成果】

- ① すべての入所利用者を対象に、必要な買い物支援を行った。
- ② 月に一度、すべての入所利用者を対象に一斉に居室清掃を行い、清潔を保つとともに、平素の生活ぶりを垣間見る機会とした。
- ③ コロナ禍において、入所利用者のストレス解消のため感染防止のうえ少人数レクリエーション（カラオケと DVD 鑑賞）や少人数運動プログラム（リズム運動やリラクソヨガ）を行った。
- ④ 日中（作業時間内）、個別の必要度に合わせて居室支援を中心とした生活支援を行った。長年気づかずにいた個々の日常生活動作の特徴を知り、寝具の汚れや衣類の不衛生な管理状態

に気が付くことにも繋がった。

- ⑤ 身体の機能的な問題や体力の衰えにより、入浴などの日常生活上で安全確保のための介助が必要な利用者に対して、必要な介助支援が出来た。
- ⑥ コロナ禍ということで、平時以上に館内の消毒などの衛生管理を行った。

【課題】

① 作業支援との連携

作業時間中に生活支援を行う場合などに、いつ、誰が、どういった支援をするのか、計画と結果を支援員全体で共有するための仕組み（報告、連絡、話し合い）の強化。

② 支援計画に基づいた支援

場当たりの支援ではなく、個別の状況に合わせた計画を立て、その長期的なプランに基づいた支援の実施。

③ 全支援員が全利用者の生活全体を支援する体制

生活支援員が作業支援のスキルアップを図り、作業支援をさらに行うとともに、作業支援員が利用者の生活全体をさらに支援できる体制の強化。

【実績】

プログラム	内容
買い物支援	近隣の商店や桂川イオンへの買い物同行や計画の支援
シーツ交換	必要な利用者に対して、寝具を整え、衛生管理支援
一斉居室支援	居室の衛生保持のための清掃支援と整理整頓の支援
運動企画	リラックスヨガ、リズム体操、筋力アップトレーニング
レクリエーション	カラオケ、DVD鑑賞（※感染予防対策を徹底しての実施）
手洗い講習	厚生労働省ホームページ掲載の手洗い法実践

3. 施設入所支援（夜間支援）

【概要】

① 年度当初 26 名の入所利用者からスタートとなった。（定員より 4 名減）

施設利用者の動向では、新規入所利用者が 2 名、退所利用者は 3 名であった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症流行により、様々な影響を受け、利用者の定員確保に向けての取り組みについては積極的な広報活動までには至らなかった。しかしコロナ禍の中ではあるが行政や学校関係等からの問い合わせは多数あった。

② 新規入所利用者確保に向けての環境整備として以前より居室の間仕切りによる個室化をすすめてきており、昨年までに 4 室は整備完了。

今年度については、新型コロナウイルス感染症対策として多床室個室化改修を目的とした施設補助金を受け、残り 11 室個室化の整備が出来た。（工期は 7 月～11 月）

個室化により飛沫による感染予防対策として大きな役割を果たし、利用者のプライベート空間の確保にもなった。

【成果】

- ① 入所の問い合わせはあったもののコロナ禍の影響により、入所体験は見合わせた。家庭の事情等による緊急対応の必要性があり2名の新規入所者の受け入れを行った。
新型コロナウイルス感染拡大防止対策として行政の指導により、外部からの感染経路遮断を目的に入館制限、利用者においては、換気の悪い密閉・多くの人の密集・近距離での会話、人混みの多い場所への不要不急の外出の制限等の徹底に努めた。又、感染症対策を目的とした施設補助金を受け、簡易陰圧装置を1室に設置した。
- ② 衛生環境面を整備するため月1回定期的に支援員による居室の清掃の実施と利用者個々のニーズによる生活支援を実施した。
- ③ 夜勤者、日直者との業務内容について話し合いを行い、周知徹底と利用者個々の情報の共有化が図れた。
- ④ 緊急用カルテの定期的な更新を実施し、常に最新の情報を保持した。
- ⑤ 休日緊急対応時における施設長・主任・看護師の連絡体制整備及び情報共有、連携の強化に努めた。
- ⑥ 休日及び夜間想定防災訓練（火災2回、地震1回）を実施した。

【課題】

- ① 利用者確保に向け関係機関等への継続的な広報活動の実施。
- ② 必要に応じて入所利用体験や見学等の受入れの実施
- ③ 夜間支援における安全・安心な生活環境整備、転倒防止など危機管理対策における夜勤職員業務の見直しを継続検討。
- ④ 夜勤職員・日直職員との意見交換会の定期化

【各サービス内容】

1. 健康管理

【概要】

- ① 新型コロナウイルス感染症対策の情報共有と実施。最新情報の取得とマニュアルの更新。
- ② 利用者個々の目標やニーズ、課題に即した支援計画の実践。
- ③ 単独通院が困難な利用者、または急病の利用者に対して、通院介助及び入院時の支援。

【成果】

- ① 新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成し、嘱託医の指示のもと毎日の検温と体調チェック、手指衛生、マスク着用、パーテーションの設置、館内消毒強化や換気等の感染対策を徹底した。体調不良者については迅速に初動対応を行い、物品の取り扱いやガウンテ

クリニック等の感染拡大防止策について職員へ周知を行った。利用者、職員ともに罹患することなく経過している。

- ② 評価表に基づく個別支援に加え、生活支援での関わりを通して支援の方向性と内容が明確化され、体力維持の為にウォーキングや筋力トレーニング等の機能訓練、健康相談、歯磨き指導など個々のニーズに応じた支援を行うことができた。
- ③ コロナ禍の影響を受け様々な検診が中止となったため、適宜個別対応を行った。

【課題】

- ① 健康維持に向けた利用者の自発的行動と定着化
- ② 体力維持と身体機能減退防止、リフレッシュを目的としたコロナ禍での定期的な運動等の取り組み
- ③ 若年層の各種検診の必要性周知と受診促進

【実績】

① 利用者の健康診断等の実施状況

期日	実施内容	対象者	人数	実施者等	実施場所
毎月1回	嘱託医健診	希望者(7・2月は全員)	147	洛西寮嘱託医	洛西寮医務室
	寮内健診	全員	443	洛西寮看護師	洛西寮医務室
6月	大腸癌検診	40才以上	11	京都予防医学センター	洛西支所
6月	基本健診	全員	37	鳥羽健診クリニック	洛西寮
12月	乳癌検診	30才以上女性 (2年に1回)	4	京都予防医学センター	洛西支所
通年	子宮癌検診	20才以上女性 (2年に1回)	1	医療機関	洛西ニュータウン病院
中止	胃癌検診	50才以上(2年に1回)	0		
中止	歯科健診	希望者	0		
中止	耳鼻科健診	希望者	0		
中止	眼科健診	希望者	0		

② 通院件数

年度	通院件数
2015年度	479(うち介助390)
2016年度	483(うち介助375)
2017年度	488(うち介助335)
2018年度	434(うち介助342)
2019年度	416(うち介助348)
2020年度	260(うち介助210)

2. 食生活と栄養管理

【概要】

利用者の栄養状態の維持や改善、食生活の質の向上を図るため、給食委員会を開催し、献立や調理方法を工夫するとともに、栄養ケア・マネジメント会議等を通じて、多職種と連携しながら個々の特性に配慮した支援について検討を行った。

【成果】

- ① 食中毒や感染症に罹患する利用者がなく、安定した食事提供ができた。
- ② HACCP 感染症対策マニュアル、殺菌基準等の周知徹底を図った。
- ③ 発熱（隔離）時の食事提供と、ディスポ食器への切り替えについて手順書を作成した。
- ④ 食堂のテーブルにパーテーションを設置し、飛沫感染予防に努めた。
- ⑤ 適温での食事提供を目指し、盛り付けおよび配膳順序の再検討を行った。
- ⑥ 誕生月のリクエストメニューや、鍋料理、ティータイムは手作り菓子を中心とし、好評を得ることができた。
- ⑦ 栄養ケア・マネジメントでは、入所者の健康・栄養状態について、多職種で各立場から検討を行った。（スクリーニング結果の推移、下記まとめ）
- ⑧ 医師の指示に従った療養食の提供と、健診結果に基づく栄養指導を実施した。

【実績】

栄養ケア・マネジメントでは、利用者の健康の保持・増進のために最適な栄養ケアを提供する事を目標としてスクリーニングを行いリスク状態を判定し、病気の症状が現れる前に栄養に関する問題を発見する事ができるよう、3 ヶ月に1回栄養スクリーニングを実施している。

当施設は視覚障害者に特化した施設で、働く事業所であることから、基本生活は自立できており、リスク判定4項目（①肥満度②体重変化率③血清アルブミン値④食事摂取量）のうち、低栄養に該当する利用者はなく、主に①肥満度、②体重変化率でリスク判定に該当する利用者が多い傾向がある。定期的にスクリーニングを行い、食事摂取量や食事以外の飲食状況（外食、嗜好品（アルコール含む））、健康状態を把握し、いつまでも健康で働き続けられるよう、今後も多職種（支援員、看護師、管理栄養士）で連携し、支援について検討を行なっていく必要がある。

【栄養スクリーニング結果の推移】

2020年度入所26名（女性10名・男性16名）

【リスク該当人数】

①肥満度（やせ・肥満） ②体重変化率（増加・減少） ③血清アルブミン値 ④食事摂取量

	高リスク	中リスク	リスク該当人数(入所26名中)
4月	① 2人	① 5人 ② 10人	17人(65%)
5月	① 2人 ② 2人	① 6人 ② 9人	19人(73%)
6月	① 2人 ② 2人	① 5人 ② 12人	19人(73%)
7月	① 2人	① 7人 ② 14人	23人(88%)

8月	① 2人 ② 1人	① 7人 ② 12人	22人(84%)
9月	① 1人	① 8人 ② 10人	19人(73%)
10月	① 1人	① 7人 ② 7人	15人(57%)
11月	① 1人	① 7人 ② 8人	16人(61%)
12月	① 1人	① 8人 ② 9人	18人(69%)
1月	① 1人 ② 1人	① 9人 ② 10人 ④ 1人	22人(84%)
2月	① 1人 ② 1人	① 8人 ② 8人 ④ 1人	19人(73%)
3月	① 2人	① 6人 ② 6人 ④ 1人	14人(53%)

【課題】

- ・ 視覚障害者が満足を得られる献立、季節感を感じられる食事提供の追求。
- ・ コロナ禍、外出自粛につき、菓子や飲料の摂取がストレス解消となっている例がある。体重量の増加、検査値上昇が懸念される。

3. 歩行訓練

【概要】

利用者個々のニーズ・歩行技術に合わせ視覚障害者の歩行に関する訓練を実施した。

【内容】

- ① 新しい利用者等に対する施設館内でのファミリーゼーション（環境理解）
- ② 通所利用者に対する単独通所のための歩行訓練
- ③ 入所利用者に対する単独歩行で帰省するための歩行訓練
- ④ 利用者に対する白杖基本操作獲得・道路などの環境構造理解・状況把握
- ⑤ 利用者に対する寮周辺店舗や歯科までのファミリーゼーション（環境理解）
- ⑥ 利用者に対するQOL向上を実現する社会参加のための歩行訓練
- ⑦ 利用者に対する店舗などでの実践を想定した社会適応訓練

【成果】

- ① 利用者に対して単独歩行による通所を想定した歩行訓練を行い、通所が可能になり、施設利用に繋がっている。
- ② 入所利用者に対して実家などへの単独帰省をするための歩行訓練を行い、家族や本人への心理的支援にも繋がっている。
- ③ 新しい利用者等に対して洛西寮館内のオリエンテーションを行い、施設利用をスムーズにしている。
- ④ 洛西寮から近隣の商店や歯科医院までの歩行訓練により日常生活の行動範囲を拡大し、日常生活の自立を支援している。
- ⑤ 利用者がより広範囲な社会参加を可能にするための歩行訓練により、QOL向上による安定した生活のための支援を提供している。

【課題】

- ① 白杖での単独歩行を一から身に着けたいという方のニーズに十分対応出来ていない。
- ② コロナ禍で公共交通機関を利用するような外出を想定した訓練にあまり時間を割くことができなかった。

【実績】（延べ人数）

- ① 実家から洛西寮への帰省等の訓練 1名
- ② 洛西寮館内のファミリーゼーション 3名
- ③ 洛西寮周辺の医療機関、店舗などへの外出の訓練 4名

4. ボランティア支援サービス

【概要】

今年度は、総勢 35 名の登録者があったが、コロナの影響で、行事などの中止、外出禁止のため、朗読ボランティア以外は、活動していただく機会がなかった。

【成果】

朗読ボランティアによる、毎週月曜日の「こんな話あんな話」、緊急事態宣言時以外は、時間差で視聴覚室が密にならないように活動していただき情報提供できた。

【課題】

コロナの状況が落ち着き、以前の様に行事などが行われた時にどれだけのボランティアが活動していただけるか。（2021年4月1日で33名の登録）

【実績】

- ① ボランティア登録者数 35 名（2020 年度現在）
- ② ボランティア活動実績

活動内容	延人数
作業	0
朗読	146
選択科目	0
手引き	0
行事	0
合計	146

B. 三療事業部

1. 盲人ホーム 美鈴

【概要】

- ① 2020年度利用者動向は、新規利用者1名（女性1名）、修了利用者2名であり、女性3名、男性4名、合計7名体制であった。（内1名 8月から休み）
- ② 新型コロナウイルス感染症などの影響により患者数が減少し、予定していた行事、イベント実習生の受け入れなど中止しコロナ感染予防に努めた。
- ③ 「コミュニケーションセミナー」開催、個別の自主学習に注力した。

【成果】

- ① 患者数の推移
 - ・患者数 3,845名（前年比 73%）
 - ・鍼の患者数は 483名 前年度比 54% 総患者数に対し 13%
 - ・「京都市はり・きゅう・マッサージ施術補助券」利用者増。延べ利用人数 280名
- ② 利用者の技術向上のための取り組み
 - ・利用者間や指導員による施術スキルチェックをしてスキルアップに努めた。
 - ・施術した患者の施術報告を作成して、利用者と指導員で施術方法や手技などを話し合い学習した。
 - ・「コミュニケーションセミナー」を開催（6回）し、コミュニケーションの基本を学ぶ事により、自己重要感が高まり新しい事への挑戦や仕事へのやる気に繋がった。
 - ・利用者個別の自主学習を支援、資格取得などに繋がった。
- ③ 船岡スタンダード「啓発動画シナリオ」参加。
- ④ 利用者1名、関係機関と連携を図り「デイサービスさくら」の職場見学、実習を行った。

【課題】

- ① 支援計画の活用による利用者の就労移行、開業への支援
- ② モニタリング活用による利用者の自己分析自己管理の促進
- ③ 職業生活を維持していくために必要な条件、習慣の向上支援
- ④ 利用者健康維持のため、健康管理支援の強化に努める

【実績】

- ① 年間患者数＝3,845名（前年比 73%）、月平均 321名
- ② 年間売上＝13,106,300円（前年比 75%）

2. 就労継続支援A型「らくさい治療院」

【概要】

2013年4月の開所以来、毎年前年を超える患者数と売り上げであったが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により前年を下回る結果となる。

しかし社会情勢から見ると2020年度は患者数前年比約93%であり落ち込みは最小限で抑えられている。

これはコロナ禍にあって、様々な状況が一変したことにより、ストレスを抱える人が増えたことと、飲食や買い物への消費から健康への消費にシフトした人が増えたのではないかと分析している。

【成果】

- ① コロナ禍の中、患者数・売上、前年の93%
- ② 利用者個別月別指名数10人中6人上昇
- ③ 若手の利用者の実績アップ
- ④ 施設利用者の施術スキルの底上げ

【課題】

- ① 利用者の1年間通してのメンタル面の安定
- ② 利用者の1年間通しての施術の再現性
- ③ 開所当時のモチベーションの意識付け
- ④ 就労先とのネットワークの構築

昨年度、訪問マッサージ事業所に就職した者が1名いるが、就職したことがゴールとなり、モチベーションが下がり目標を持てなくなっている。就職先では研修制度を設けスキルアップを図っているが、前向きに取り組む姿勢が見られないと就職先の所長から相談を受けた。

障害の重複や、ボーダーラインの理解は難しく、国家資格は持っているが現場で活躍することの難しい事例が増えている。障害特性、能力、資質等、これらが解った状態で果たして希望する就職先に受け入れてもらえるのか。

これからの当法人の三療事業の役割が問われている。

【実績】

- ① 年間患者数=5,989名（前年比93%）月平均499名
- ② 年間売上=20,476,600円（前年比96%）
- ③ 平均賃金

総支給月数 合計③	就労時間 合計①	工賃支払総額 合計②	平均工賃月額(一人当たり) ②÷③	平均工賃時間額 ②÷①
124月	16,539時間	19,079,802円	153,869円	1,154円

④ 年度別月平均個別指名数の推移（％）

年度	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
2019	59.60%	66.10%	59.80%	52.40%	32.30%	34.90%	35.40%	23.60%	13.90%	2.30%
2020	64.60%	61.80%	61.70%	44.20%	39.30%	37.30%	30.00%	25.30%	11.50%	7.70%

C. 法人

1. 事務局

【成果】

① 法人運営

- ・ 経営戦略会議の設置運営
- ・ 人件費のコストダウンによる経費削減
- ・ ホームページによる情報発信
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策補助金（補助金）
 - ① 多床室個室化補助金（補助金：9,374,000円 ※総工費：12,500,000円）
 - ② 簡易陰圧装置購入補助金（補助金：770,000円）

② 京都市関係

- ・ 京都市指導監査 10月8日 → 書面指摘無し
- ・ 運営補助金
 - 盲人ホーム事業補助金（8,143,340円）
 - 民間社会福祉施設サービス向上補助金（施設整備借入金元本償還）（1,008,000円）

③ 助成金等関係

- ・ 特定就職困難者雇用開発助成金（1,699,999円）
- ・ 障害者雇用納付金制度報奨金（5,502,000円）

④ 機関誌「楽西(らくさい)」の発行

年2回（8月と1月）発行。各事業所の情報発信、利用者の様子等、明るく楽しいイメージと読みやすい工夫をし、法人への理解が深まるような内容を心がけた。

【課題】

- ① 洛西寮利用者の獲得
- ② 洛西寮の建物・設備等老朽化による更新
- ③ 採算性のある事業運営の検討
- ④ 事業活動計算書（損益計算書）における増減差額の黒字化
- ⑤ 人材育成

【実績】

① 事業運営

事業(所)名	サービス事業	事業開始年月日	定員
障害者支援施設 洛西寮 ・洛西寮 ・らくさい作業所	施設入所支援(30名) 就労継続支援B型(40名)	2011年10月1日 2013年4月1日	40名
点字出版施設 紫野点字社	点字出版事業	1982年4月	
京都府中途失明者巡回生活 指導員派遣事業	更生相談事業	1977年10月	
盲人ホーム美鈴	地域生活支援事業	1982年4月	20名
らくさい治療院	就労継続支援A型	2013年4月1日	10名
障害者相談支援事業所 スマイルサポート	特定相談支援事業	2014年3月1日	

② 理事会・評議員会の開催

・理事会

月	日	主な内容	出席者数
5	26	2019年度事業報告並びに決算案について(書面決議)	理事8名 監事2名
9	9	多床室個室化補助金及び備品等購入積立資産の目的外 使用について	理事8名 監事2名
12	9	苦情解決第三者委員の選任について	理事7名 監事2名
3	11	2020年度事業計画案及び予算案について	理事8名 監事2名

・評議員会

月	日	内 容	出席者数
6	13	2019年度事業報告並びに決算案について(書面決議)	評議員9名

・監査会

月	日	内 容	出席者数
5	19	2019年度事業報告並びに決算案について	理事2名 監事2名

③ 法人登記事項

資産の変更登記(2020年6月25日)

2. 点字出版施設「紫野点字社」

【概要】

京都市からの点字印刷を中心に受注した。「市民しんぶん・市会だより」点字版は年間契約し、毎月安定した仕事量を確保できた。

その他、「市民しんぶん区版挟み込み号」として、ごみ減量課、安全推進課、各区からの発信される情報誌の点字版を製作した。また、会議等で使用される少部数の資料にも対応した。

京都市以外では、全国盲導犬施設連合会や社会福祉協議会、視覚障害者関係団体、ボランティアグループなどからの受注があった。

コロナ禍の年度において、公共イベント等が少なく、その案内記事が掲載されない状況で、新聞の文字量が少なかった。印刷枚数は前年比 86%。

【成果】

- ① 京都市の広報紙だけでなく、会議資料等の点字版を作成した。
- ② 視覚障害者団体やボランティアの活動を援助する点字印刷を迅速に安価に行えた。
- ③ 視覚障害者の不足しがちな情報を提供するための出版活動を推進した。
- ③ らくさい作業所の作業を確保し、安定した工賃配分と就労意欲を向上させた。

【課題】

- ① 市民しんぶん点字版の短期間での製作日程への対応と効率化
- ② 少部数資料等への迅速な対応
- ③ らくさい作業所の点字印刷能力と受注への調整
- ④ 後継者の育成

【実績】

	実績（枚）	前年比実績（%）
製版	4,841	91%
塩ビ版印刷	344,921	86%
パソコン製版	909	108%
パソコン印刷	10,091	43%
点字名刺、はがき	2,119	229%
点字シール	5,370	185%
発送	1,719	65%
墨字印刷	33,091	110%
墨字入力	6	67%

3. 京都府失明者巡回生活指導員派遣事業

【概要】

- ① 本年度も、南丹、乙訓、山城北、山城南の医療圏域の相談活動を展開した。また、関係機関との連携にも力を入れ、利用者発掘と視覚障害啓発へと繋げた。
- ② コロナ禍での訪問相談活動は大きな影響があった。相談者の多くは高齢であるが、特に単身で地域と繋がりの薄い方は、今までより地域社会と疎遠になる危険性が高まるため、地域の介護施設などの関係機関と連携し、孤立した視覚障害者をなくす活動を行った。

【成果】

- ① 補装具・日常生活用具・機器の紹介、活用方法についての支援。
- ② 福祉サービス、制度利用の情報提供と行政への橋渡し。
- ③ 日常生活、人間関係の不安等への傾聴と心理更生。
- ④ 介護保険利用者に対する制度利用の支援など、介護事業所との橋渡し。
- ⑤ 医療との連携による、障害福祉の情報提供と制度利用までの調整。
- ⑥ 視覚障害受障後の障害受容相談支援と生活訓練への橋渡し。
- ⑦ 社会参加促進と生き甲斐の創出。当事者同士の交流、情報交換できる場の提供。
- ⑧ 障害年金請求申請手続きの説明など、経済的問題解決に対する情報提供と支援。
- ⑨ 急な状況変化が生じた相談者への緊急的な環境調整。
- ⑩ 一般就労・福祉的就労の環境調整とその心理的支援。
- ⑪ 福祉事務所の担当者に対する最新の福祉機器などの情報提供。

【課題】

- ① 関係機関との継続的な連携が新規視覚障害相談のニーズが掘り起こされたことに加えて、今までに繋がった利用者の継続的相談による相談対応と事務作業の増加や、個々の相談ケースの深刻化などによる、マンパワー不足解消のためのスキルアップ。
- ② 市町村窓口に対する本事業の更なる周知と、連携・広報などの協力支援態勢の構築。
- ③ 各地域における、福祉事務所、障害者地域生活支援センター、医療機関、当事者団体が連携し、QOL 向上に向けたシステムの構築。
- ④ 他の兼務業務との調整。

【実績】

- ① 過去5年間の相談件数比較（延回数、2018年度より集団指導支援を含む）

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
664	969	947	1186	1207

② 府内相談会実施状況

実施日	開催地	会場	時間
11月17日	宇治市	宇治学習センター	10:30~15:30
12月14日	京丹波町	京丹波町中央公民館	10:30~15:30

4. 指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所 スマイルサポート」

【概要】

- ① 計画相談の主な対象利用者は当法人施設の利用者であり、障害者福祉サービスの支給決定がスムーズに行われるようにコーディネートした。
- ② 洛西寮生活介護事業廃止に伴い、就労B型への支給移行手続き。
- ③ 緊急入所措置が必要であった通所利用者に対して、同法人内での事業所の強みを活かして、迅速な支給決定に向けて体制が整うように支援した。

【成果】

- ① アセスメント、サービス等利用計画案・確定版、モニタリングの作成、サービス担当者会議の開催。
- ② ピアカウンセリングを全員対象で毎回、順番で行なっているが、希望者がある場合はその都度、優先して実施している。

【課題】

- ① 通所者の場合、他の行政区、京都市外、京都府外の利用者の計画相談を受ける時もあるが、その地域の社会福祉資源や独自制度等の詳細な把握が難しく、十分な対応をとることができていない。
- ② 他の兼務業務との調整。

【実績】

① 計画相談

提供月	計画	モニタリング
4月	15	4
5月	2	0
6月	6	5
7月	2	4
8月	2	3
9月	0	1
10月	1	5
11月	3	6

12月	0	9
1月	4	5
2月	1	2
3月	4	2
合計	40名	46名

・カウンセリング・・・98名（延べ人数）

5. 主催行事

A. 洛西寮まつり

【概要】

毎年多くの方に来場いただき賑わう「洛西寮まつり」であるが、新型コロナウイルス感染症流行により中止とした。

B. 西京区視覚障害者支援ボランティア養成講座

【概要】

今年度、西京区社会福祉協議会の担当職員、西京視覚障害者協会の松永信也氏、当法人のボランティア養成担当職員でボランティア講習会の企画検討の場を持ち、6月24日（水）、7月7日（火）で日程も決定し、市民新聞西京区版にも掲載されたが、コロナ禍ということで、中止となった。

【成果】

西京区社会福祉協議会、西京視覚障害者協会との共催で、地域での連携を維持し、ボランティア獲得の実情に対する認識共有を計った。

【課題】

高齢化し減少するボランティアの新たな登録者に繋がる活動の検討。

【実績】

共催団体での会議や電話・メールなどでの連携、西京区広報（市民しんぶん区版）掲載の原稿作成。

6. 共催事業

A. 第54回白杖安全デー（京都市内）

【概要】

配信期間：2021年2月22日（月）～3月31日（水）

企画内容：ユーチューブに視覚障害者の外出の不便、特にコロナ禍における視覚障害者の思いを届けるための映像をアップロードして、広く社会に啓発する。

第1動画 コロナ禍での視覚障害者の生活

第2動画 視覚障害者と交通問題

第3動画 盲導犬ユーザーの思い

【成果】

- ① 毎年、人が集まる駅や繁華街などでシュプレヒコールなどの啓発活動をおこなってきたが、今年はコロナ禍で、活動内容の大きな変更が必要になった。その中で、動画を作成し、インターネット上で広く啓発できたことは新しい可能性の発見となった。
- ② 第1動画は1894人、第2動画は616人、第3動画は746人に視聴してもらうことが出来、広く思いを届けることが出来た。
- ③ 動画の音声をCD化し、今後の視覚障害理解のために活用できる素材となった。

B. 第46回あい・らぶ・ふえあ（視覚障害者福祉啓発事業）

【概要】 2020年度の活動

- ・全体会議…6回開催（京都ライトハウス）
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「あい・らぶ・ふえあ」のイベントは中止。
 - ・イベントにかかわる啓発事業の検討を行う（補助金合計178,000円）
 - ラミネートチラシの作成（飲食店編400枚、買い物編400枚・共通編800枚）
- ・チラシ配布先
 - イオンモール京都・北大路ビブレ・洛北阪急スクエア・高島屋京都店・JR伊勢丹京都店
 - ポルタ（京都駅前地下街）・ゼスト御池・高島屋洛西店・洛西ラクセーナ商店会